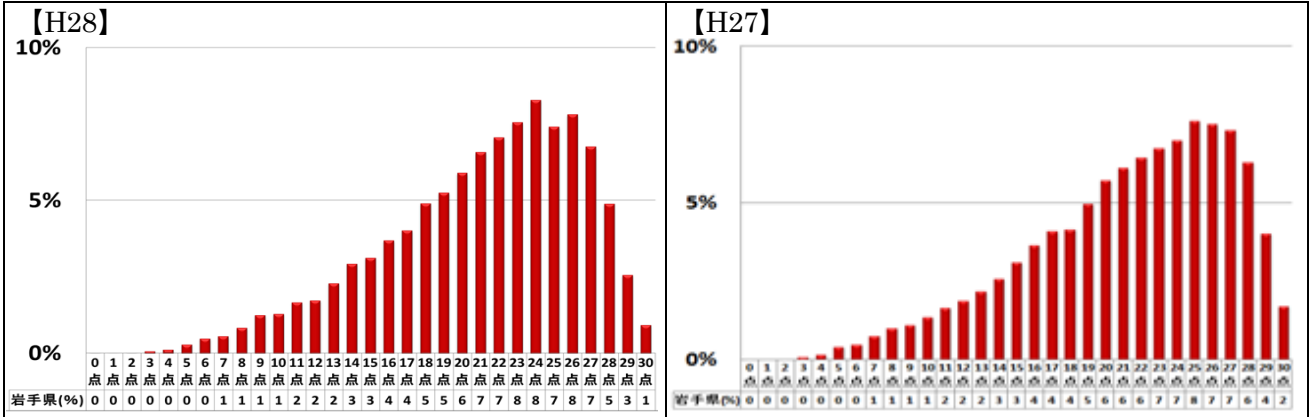


授業改善の手引 小学校第 5 学年社会

1 調査結果

(1) 分布状況



○ 問題数は昨年度と同じで、正答数の最頻値は 24 問、平均正答数は 21 問です。昨年度の分布と比較して、山の位置や形はあまり変わっていませんが山の左側がやや高くなっています。また、正答数 28～30 問の層が減っています。
(正答数の最頻値：該当する児童数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率 (正答率の () の数字は平成 27 年度のもの、〈 〉の数字は平成 26 年度のもの)

領域等	正答率	観点	正答率
地域や地域の人々の様子 (8 問)	82% (73) (85)	社会的な思考・判断・表現 (9 問)	63% (61) (70)
健康な生活や安全を守る活動 (7 問)	77% (79) (65)	観察・資料活用の技能 (11 問)	71% (83) (67)
県の様子 (4 問)	73% (73) (69)	社会的事象についての知識・理解 (10 問)	76% (70) (77)
日本の国土 (5 問)	56% (66) (65)	活用 (4 問)	51% (54) (65)
日本の産業 (6 問)	59% (56) (66)		

(3) 結果概要

- 「社会的な思考・判断・表現」の正答率は、昨年度の正答率を 2 ポイント上回っています。特に、地域の人の願いや地域の人々の取組の意味について考える問題で改善が見られました。
- 「観察・資料活用の技能」については、昨年度の正答率を 12 ポイント下回っています。等高線や雨温図等、基本的な資料の読み取りについて課題が見られました。
- 「社会的事象についての知識・理解」の正答率は、昨年度の正答率を 6 ポイント上回っています。特に、地図記号や昔の道具、食料生産の工夫についての問題で改善が見られました。
- 活用に関する問題 (小問 5, 13, 19, 27) の正答率は 51% です。社会的事象の意味について考察し、条件に従って説明する問題、特に、記述で答える問題で課題が見られました。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マウスを表す)

小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較
○ 1	95	19	○ 9	85	4	● 19	50	3
○ 2	81	▲ 5	○ 16	82	▲ 12	● 23	29	▲ 39
○ 6	96	15	● 17	76	▲ 14	● 28	67	0

- ◇ 小問 1, 2, 6, 9, 16 は課題に改善傾向が見られましたが、小問 2 「学校の周りの地図の読み取り」、小問 16 「47 都道府県の名称と位置」の問題は、昨年度を下回っており今後も注視が必要です。
- それ以外の小問については、依然として課題が継続している状況です。小問 19 「県の様子について複数資料から読み取り関連付けて考察する問題」については、意識して指導を続けていく必要があります。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)						
大問	中問	小問	通し番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	1		主な地図記号を理解している。	3・4年(1)ア	知	経年	95	1	0	95	2	1		0
	(2)	2		学校の周りの様子について、方位の知識をもとに、地図を読み取ることができる。	3・4年(1)ア	技	経年	81	4	7	7	81	0		0
2	(1)	3		販売の仕事における工夫と、消費者の願いとの関係について考えることができる。	3・4年(2)イ	思		96	96	1	1	2	0		0
	(2)	4		買い物の際の消費者の工夫について理解している。	3・4年(2)イ	知		89	8	89	1	1	1		0
	(3)	5		販売に見られる国内外の他地域とのかかわりについて、資料を読み取って考え、説明することができる。	3・4年(2)イ	思	活用	47					46	47	7
3	(1)	6		暮らしにかかわる道具と、それらを使っていたころの暮らしの変化を理解している。	3・4年(5)ア	知	経年	96	1	0	2	96	1		0
	(2)	7		地域の人々が受けついできた年中行事の特色を考慮することができる。	3・4年(5)イ	思		60	13	17	60	8	1		1
4	(1)	8		資料を読み取り、警察が地域の人々と協力して防犯に努めていることについて考えることができる。	3・4年(4)ア	思		90	90	6	2	2	0		0
	(2)	9		交通事故発生時の関係諸機関の連携を示す図を読み取ることができる。	3・4年(4)イ	技	経年	85	4	85	8	2	0		0
	(3)	10		学校で火災に対する備えが行われていることを表す資料を読み取ることができる。	3・4年(4)ア	技		72	5	72	18	4	0		0
	(4)	11		消防署と消防団が連携して、火災に対処する体制をとっていることを理解している。	3・4年(4)イ	知		57					31	57	13
5	(1)	12		廃棄物の処理の仕方の工夫に関する資料を読み取ることができる。	3・4年(3)イ	技		71	10	9	9	71	0		0
	(2)	13		廃棄物を資源として活用する取り組みについて、資料を読み取って考えることができる。	3・4年(3)イ	思	活用	78	12	3	78	5	1		1
	(3)	14		飲料水が、家庭生活や産業などのさまざまな場面で使われたり、市町村全体で大量に使われたりしていることを示す資料を読み取ることができる。	3・4年(3)ア	技		82	3	10	4	82	0		1
	(4)	15		飲料水が消費地に供給されるまでについて理解している。	3・4年(3)イ	知		78	13	78	4	3	1		1
6	(1)	16		47都道府県の名称と位置を理解している。	3・4年(6)ア	知	経年	82					15	82	3
	(2)	17		等高線についての理解をもとに、地形の様子を読み取ることができる。	3・4年(6)イ	技	経年	76	6	10	76	6	0		1
	(3)	18		岩手県における人々の生活や産業と、国内の他地域や外国とのかかわりを示す資料を読み取ることができる。	3・4年(6)エ	技		81	5	81	5	7	0		1
	(4)	19		岩手県の産業の特色を、地形と関連づけて考え、説明することができる。	3・4年(6)イ	思	経年活用	50					39	50	11
7	(1)	①	20	主な国の名称と位置を理解している。	5年(1)ア	知		67	8	14	9	67	1		1
		②	21	世界の主な海洋を理解している。	5年(1)ア	知		69	11	11	69	6	2		1
		③	22	日本の領土について理解している。	5年(1)ア	知		50					34	50	16
		④	23	国土の気候の概要についての理解をもとに、気温と降水量のグラフを読み取ることができる。	5年(1)イ	技	経年	29	31	27	29	8	1		3
	(2)	24		国土の地形の概要に関する資料を読み取ることができる。	5年(1)イ	技		64	64	18	9	4	2		3
8	(1)	①	25	日本の主な農産物の分布図と気候に関する資料を関連づけて読み取ることができる。	5年(2)イ	技		72	72	12	7	8	0		2
		②	26	稲作がさかんな地域の気候の特色を、資料から読み取ることができる。	5年(2)イ	技		64	15	64	10	8	0		3
	(2)	①	27	稲作に従事する人々による、米の味や生産効率を高めるための工夫について、資料を読み取って考え、説明することができる。	5年(2)ウ	思	活用	30					57	30	13
		②	28	農業の機械化による作業時間の変化について、資料を読み取って考えることができる。	5年(2)ウ	思	経年	67	67	6	19	4	0		4
		③	29	耕地整理による生産を高めるための工夫について、資料を読み取って考えることができる。	5年(2)ウ	思		50	8	11	27	50	1		4
		④	30	稲作に従事する人々が、食の安全確保に努めながら生産の工夫をしていることについて理解している。	5年(2)ウ	知		73	7	13	3	73	0		4
全体正答率								70							

2 指導のポイント

(1) 「凡例」等をもとに資料を読み取らせ、資料から分かる特徴を具体的に説明させましょう。

ア 問題例とその概要 6(4) 【経年比較問題】

〔問題文〕

もえさんたちは、岩手県のどこで、どのような農産物がつくられているかを調べました。岩手県の米は、どのような地域で多くつくられていますか。次の資料ア～ウを読み取って、「土地」「水」という言葉を使って書きましよう。

(社会的な思考・判断・表現)

■ 2万t以上

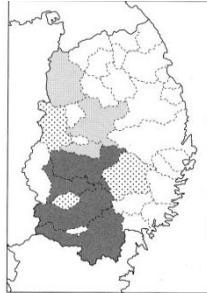
■ 1.5万t以上2万t未満

■ 1万t以上1.5万t未満

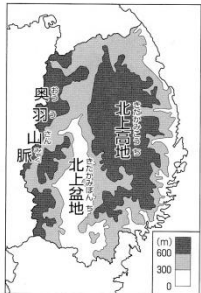
■ 1万t未満

(農林水産省資料から作成) (2014年)

資料ア 岩手県における米作別の米生産量



資料イ 岩手県の地形



資料ウ 岩手県の河川



《正答例》 土地が平らで、川から水をたくさん取り入れやすい地いき。

《解答状況》 正答：50% 誤答：39% 無解答等：11%

《誤答分析》

児童の誤った記述例としては、土地の高低ではなく「土地の広さ」について記述しているものや、資料アから読み取れる米づくりのさかんな地域の広がり様子と、資料イ・ウから読み取れる地形や河川の様子とを関連付けずに記述しているものが多く見られました。

イ 指導上の留意点

資料を正しく読み取る技能を育てるには、普段から、資料のどこに着目していくとよいかを明らかにしながら授業を進めていくことが大切です。まず、資料の表題、凡例、目盛り、単位、変化などをもとに、一つ一つの資料を読み取る力をつけ、次に、資料相互を関連させて読み取る活動を重視していきましょう。

また、授業の中心となる資料は大きく黒板に提示し、全員で一緒に読み取りのポイントとなるところに印を付けるなどして確認したり、読み取ったことを他者と交流して新しい視点に気付かせたりするなど、学習方法を工夫しましょう。資料によっては、透明なシートを重ね合わせたり、スライドを活用したりするなど提示方法も工夫しましょう。

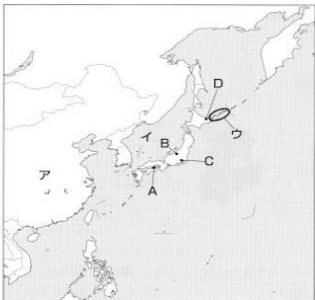
(2) 学習内容と社会の出来事をつなげるために、地図帳や新聞を活用して理解を深めさせましょう。

ア 問題例とその概要 7(1)③

〔問題文〕

地図中のウの島々は日本固有の領土です。しかし、ロシア連邦が不法にせんりょうしているため、日本政府が島々を返すように求めて交しようを続けています。これらの島々を合わせて何といいますか。その言葉を書きましよう。

(社会的な事象についての知識・理解)



《正答例》 北方領土

《解答状況》 正答：50% 誤答：34% 無解答等 16%

《誤答分析》

児童の誤った記述例としては、「択捉島」「沖ノ島」などの島の名前を書いているものが多く、未記入も目立ちました。誤答の多くは、北方領土という言葉の意味が十分理解されていないことが原因であると考えられます。

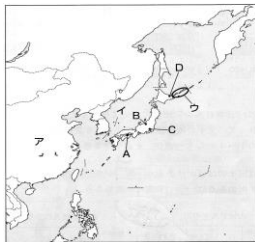
イ 指導上の留意点

授業では、地図帳を活用して、北方領土の地理的な位置や範囲等を確認することができるようにましよう。また、日本の領土については、新聞やテレビなどで多く見聞きすることも多いことから、世の中の出来事と学習内容を関連付けることで、社会科を学習する意味を認識できるようにすることが大切です。

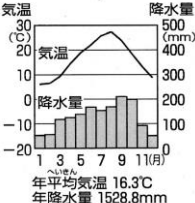
(3) 資料の見方や読み取り方を意図的・計画的に指導しましょう。

ア 問題例とその概要 7(1)④ 【経年比較問題】

〔問題文〕
次の1～4のグラフは、地図中のA～Dのいずれかの地点の気温と降水量を表しています。Aの地点のグラフを1つ選び、その番号を書きましょう。(観察・資料活用の技能)

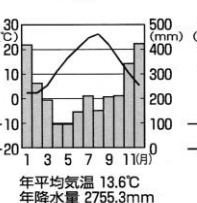


1



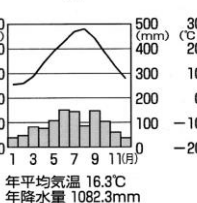
年平均気温 16.3℃
年降水量 1528.8mm

2



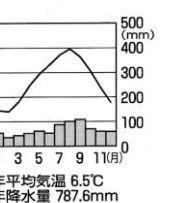
年平均気温 13.6℃
年降水量 2755.3mm

3



年平均気温 16.3℃
年降水量 1082.3mm

4



年平均気温 6.5℃
年降水量 787.6mm

(2016年版「理科年表」から作成)

《解答状況》 選択肢1：31% 選択肢2：27% 選択肢3【正解】：29% 選択肢4：8% 無解答等：4%
《誤答分析》

誤答例では、太平洋側の気候(地図C地点)の雨温図を選択した児童が多く見られました。日本の南(暖かい地域)ということで気温の高さには着目しているが、降水量の特色についてはあまり意識していないことがうかがわれます。

イ 指導上の留意点

国土の気候の概要については、地図帳、立体模型等を活用して調べ、白地図にまとめるなどの作業的な学習を取り入れることが考えられます。また、それぞれの地域になぜそのような気候の特色が見られるのか絵図等で視覚的にとらえさせ理解できるようにすることも大切です。資料の特徴に合わせて、必要な情報を読み取る技能を意図的・計画的に指導していきましょう。

(4) 学習問題について、児童一人一人が根拠を明らかにしながら説明する場面を大切にしましょう。

ア 問題例とその概要 8(2)① 【活用問題】

〔問題文〕
山形県の庄内平野にある水田農業試験場では米の新しい品種の開発が行われています。このことについて、やまとさんは次のようにまとめました。やまとさんのまとめ中のAにあてはまる内容を、「はえぬき」という言葉を使って書きましょう。またBにあてはまる内容を書きましょう。(社会的な思考・判断・表現)

次の資料アから、庄内平野では、1990年以前は「ササニシキ」の作付面積が広がったが、2000年以後はAことが読み取れる。その理由は、資料イから、Bためであると考えられる。

資料ア 庄内平野におけるいねの品種別の作付面積(100a<1haあたり)

年	ササニシキ	はえぬき	その他
1970	50.0(a)		50.0
1980	88.2		11.8
1990	95.4		4.6
2000	7.1	65.9	27.0
2010	41.1	58.9	

(山形県庁資料から作成)

資料イ 品種をかけ合わせて「はえぬき」ができるまで

- ササニシキ × び系94号 → 庄内29号
- ササニシキ × コシヒカリ → 庄系G65
- ササニシキ × 農林22号 → コシヒカリ
- ササニシキ × 農林1号 → コシヒカリ
- ササニシキ × Pi No.4 → あきたこまち
- ササニシキ × サンプク、大系437 → 奥羽292号

「はえぬき」(1991年たんじょう)

- 寒さに強い。
- 病気に強い。
- 風などでたおれにくい。
- 味がよい(ねばりが強い)。
- 見た目がよい。

《正答例》 A：はえぬきの作付面積が広がった。 B：ササニシキよりも倒れにくいなどの特色をもつはえぬきが誕生して、農家の人々が多く作るようになった。

《解答状況》 正答：30% 誤答：57% 無解答等：13%
《誤答分析》

Aの誤答例については、「はえぬきが65.9aである」「はえぬきが少なくなっている」と解答する児童が多く、「ササニシキ」と「はえぬき」の作付面積の変化の読み取りに課題が見られました。Bの誤答例については、「品種をかけ合わせたから」という内容の記述が多かったほか、無解答も多く見られました。問題について複数資料を関連付けて読み取り、問われている社会的事象が見られるようになってきている理由について説明することに課題が見られました。

イ 指導上の留意点

「どのようになっているか」「なぜそのようになっているのか」などの問いを大切にしながら、根拠を明らかにして事象について考え説明する場面(グループ・全体)を設定したり、考えたことを自分の力で文章にまとめる学習活動を取り入れましょう。